

## 言葉の教育はまず耳から

私の親しくしている方が、

「私たち夫婦は決して子供の前で田舎の言葉を使ったことはなく、また、そういう言葉を使う人も、この辺にはいないのに、うちの子は、このごろ急に口が達考になりましたが、田舎の言葉の調子が出るんです。言葉でも遺伝ということがあるんでしょうか」

と、私に話しかけたことがあります。

「そのお子さんを、赤ちゃんの時、田舎のお婆ちゃんの家で預けたことがありませんか」と私が尋ねますと、「妻が病気をした時、半年ほど預けたことがあります。けれども、それはまだ口が利けない頃のことです」という返事でした。

「それですよ。赤ちゃんは、口が利けなくても、耳の穴はあいていて、ちゃんとそれを聞いて頭の中に蓄えているんですよ。赤ちゃんは、口が利けるようになってから言葉を覚えるのではなく、口が利けないうちから、せっせと聞いた言葉を頭の中に蓄えているんですよ」と、話したことがあります。

このような例は、たくさんあります。赤ちゃんは、生まれてから耳にする言葉を覚えているのであって、それまでは、頭の中には何もありません。だから、日本語でも、英語でも、どこの国の言葉でも、耳にするものは何でも覚えるのです。

“ウェブスターの辞典”で有名なウェブスターは、赤ちゃんの時、お父さんは英語、お母さんはドイツ語、というように、四人の家族から四つの言葉で語りかけられて育ったため、四か国語を身につけました。

ウェブスターが天才であったから、赤ちゃんのうちから四か国語を覚えたのだ、という人がありますが、決してそうではありません。赤ちゃんは、だれでも、語りかけてくる言葉を何でもみんな覚えてしまうのです。